

博物館だより



No.172

令和3年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS 令和2年度第35回作品公募

みやこ町少年少女俳句大会の結果について

—大会概要と今期入賞作品の紹介—

京都平野に春の訪れを告げる名物行事「みやこ町三重塔まつり」。今年は残念ながらコロナ禍により中止となりましたが、これを記念する文化行事「少年少女俳句大会」は、表彰式を行わない形で例年通り実施されました。

その結果、コロナ禍にも関わらず、多くの小中学校から応募をいただき、次のような成果をおさめることができました。

- ・応募総数：八八六四句
- (参加児童生徒総数：三六五九人)
- ・内訳 小学校：五五三八句
- 中学校：三二二六句
- (うち入賞・入選句：三三三句)

ご協力頂きました児童生徒の皆様をはじめ、学校・保護者や協力機関等関係各位に厚くお礼を申し上げます。

さて、大会の結果ですが、例年ご協力頂いています豊津俳句会(岩井小夜子代表)の皆さんによる審査の結果、以下の作品が最優秀・特選句として選ばれました。

●小学校の部

・特選「小宮豊隆賞」

暗い空突然光る雪起し

今元小五年 川内 ゆずは

・特選「三四郎賞」

四方の春コロナ終息祈りけり

行橋小六年 遠藤 春花

・特選「蓬里雨賞」

もも色の川を流れる花いかだ

泉小 四年 小畑 仁

●中学校の部

・特選「小宮豊隆賞」

雪景色父の背流す大浴場

泉中 二年 廣末 翔大

・特選「三四郎賞」

文化祭みんなの声が歌になる

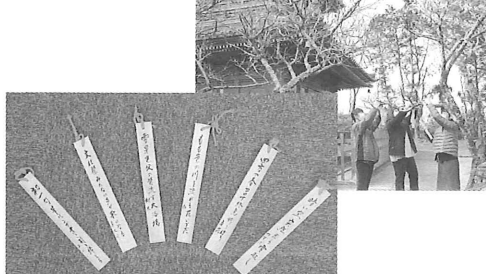
豊津中一年 岡部 真之介

・特選「蓬里雨賞」

初一句筆ペンで書き引き締まる

育徳館中三年 佐藤 あい

以上の句をはじめ入選句(教育委員会賞・秀逸57計句)は短冊様の木札に記し、豊前国分寺跡公園内の梅の枝等に下げられていますので、梅見を兼ねてぜひご覧下さい。



▲上：入選句吊下げの様子 塔周辺の梅の木等に下げました
下：木札は選者・岩井小夜子先生に染筆いただきました

◆講座・教室・催し物ガイド 3月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

※緊急事態宣言に伴い休講

【古典かな講座】

3月13日(土) 9時30分～

【古文書講座】

3月20日(土) 10時～

【みやこ学講座】

3月27日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「梁習」始めませんか？



▲ボランティアのガード作業(参考) 蔵持山登山道の転石片付け作業

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館まで気軽に問合せください！

○博物館友の会

バスハイワ・歴史たんけんウォーク等の学びの旅に参加できます。

○文化遺産ボランティア養成講座

町の宝をガイド&ガイドするスタッフを募集・養成する講座で、愛称「豊み隊！」でリスタート中！

1月の業務日誌から

1月8日(金) 早朝にかけて近年でも稀に見る大雪に見舞われ、町全体が一面の雪景色になりました。急激な気温の低下に伴って博物館の軒下に巨大な氷柱が出現するなど、普段ではみられない景色をみることができました。

1月26日(火)、この日が文化財防火デーであることに因み、博物館で館内防火訓練を行いました。普段は意識しない防火設備を改めて点検すると共に、今年はAEDの取り扱いについても確認しました。



▲雪化粧が施された三重塔 大雪の早朝にも関わらず既にカメラを手にした人々の姿がみられました



▲館内の消火設備を点検したのち入口に設置されるAEDの操作等について確認を行う博物館スタッフ

みやこの歴史発見伝 135

140年前に 外国人が調査した みやこ町の古墳③

— イギリス大英博物館収蔵資料から —

ありましたので、ご報告いたします。

「豊津県」発足

150年の年に

「豊津」の地に藩庁（藩の行政機能の中核を担う役所）が設けられた後、明治4年（1871）に「豊津藩」から「豊津

感染拡大と博物館

新型コロナウイルスの感染拡大から1年が経過しますが、未だ終息の気配はみられず政治・経済活動に支障をきたしています。新たに大規模な感染拡大に陥ったイギリスでは現在、世界最大の博物館のひとつである大英博物館が休館になるなど、文化面でも大きな影響を及ぼしています。この大英博物館の収蔵資料の中に、ウィリアム・ガウランドというイギリス人によって、約140年前に、みやこ町勝山黒田にある綾塚古墳の調査が行われ、その際に作成された石室の実測図が収蔵されていることを以前ご紹介させていただきました。（博物館だよりNo.151、152）彼がみやこ町で行ったこれらの調査の記録については、日本・イギリスの共同調査グループ「ガウランド・プロジェクト」によって、大英博物館の収蔵資料を対象に実施された調査の結果、確認されたものです。今回はこの多数の資料の中から、これまで全く知られていなかった「新たな発見」が

871）に「豊津藩」から「豊津県」へ改められ、今年で150年を迎えました。この翌年の11月、30歳のウィリアム・ガウランドは明治政府から招聘され、完成したばかりの大坂造幣寮（後の造幣局）に貨幣鑄造技師として勤務します。また職務とは別に日本の自然、文化に興味を示し、登山界では、外国人初の「槍ヶ岳登頂」や「日本アルプス」の名付け親として知られています。彼の業績の中でも最も注目され、現在でもその資料的価値が高いものとして、古墳の調査記録がみられます。彼は国内各地の138箇所の古墳を調査していますが、そのうちの一つが綾塚古墳で、詳細な調査の記録が現在大英博物館に収蔵されています。近年の調査の結果、彼がみやこ町を訪れたのは、明治16年（1883）頃と推察されています。彼の論文に「黒田村にある2つの横穴式石室墳」と記載されている綾塚・橘塚古墳については詳細な記録が残されていますが、その他にみやこ町の古墳と思われる記載は確認

できませんでした。しかし、彼が記録と共にイギリスに持ち帰った多数の資料の中に、これまで全く確認されていなかったもうひとつの「みやこ町の地名」を発見することができました。

「京都郡豊津村」

彼が日本で入手した古墳関連資料の中でも多数を占めるものが6世紀頃の古墳にみられる須恵器と呼ばれる硬質の土器です。この中に「蓋坏」とよばれる蓋のついた容器がみられますが、この中つから、内側に「豊前京都郡豊津村」とローマ字表記された紙片が貼り付けられたものが発見されました。記載内容から、この須恵器は、現在のみやこ町豊津周辺で入手した可能性が高く、彼が「黒田村」以外に「豊津村」にも調査に来たことを裏付ける資料として

重要な発見となりました。資料の記録を重視する彼の几帳面な性格によって、138年という時間とイギリスという距離の隔たりを超え、今回の「みやこ町の地名の記録」の発見につながりました。

出土地の謎

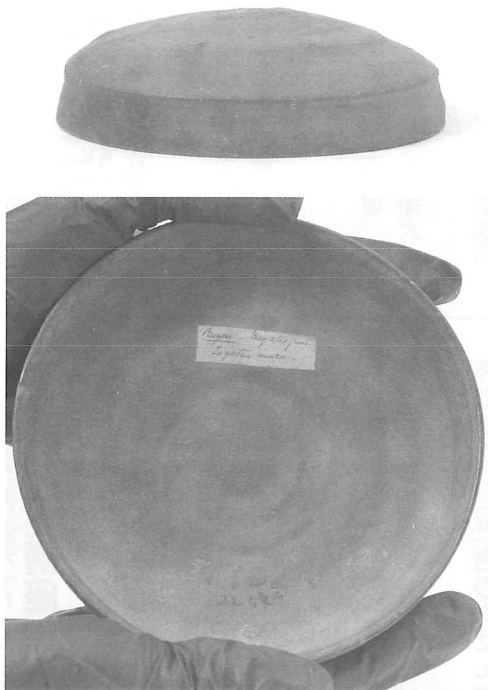
この記載の中にみられる「豊津村」の所在地は、正確には「仲津郡」であることから、郡の名称についてはは再考の余地があります。しかしこの時期は「豊津藩」から「豊津県」に改められるなど、行政関連の名称がめまぐるしく変化する過渡期であり、混乱の中で誤った認識が生じたことも想定されます。該当する古墳を「豊津」に多数分布する古墳から特定する事は困難ですが、彼が調査対象とした全国の古墳の調査記録やその須恵器の年代等から、黒田の綾塚・

橘塚古墳とほぼ同時期の巨石墳である「甲塚方墳」がその有力な候補地ではないかと思われます。

「町の魅力発信」の先駆者

彼がみやこ町を訪れたとみられる年から138年が経過し、また彼が亡くなって来年で100年を迎えようとしています。みやこ町の古墳を調査し、その詳細をまとめた彼の記録は、現在も全く色褪せることなく、この町の古墳研究に不可欠な「財産」となっています。みやこ町の史跡の重要性を世界の舞台上で発信した最初の人物は、この一人のイギリス人と言っても過言ではなく、古墳を通して彼が垣間見える資料としても非常に興味深いものといえます。

（井上信隆）



大英博物館収蔵資料 須恵器坏蓋（下は内面）

©The Trustees of the British Museum. Shared under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International (CC BY-NC-SA 4.0) licence.

写真提供：日英共同調査グループ Gowland Project
協力：明治大学博物館



Buzen Miyakogun Toyotsu mura(豊前京都郡豊津村)と判読できる蓋の内面に貼り付けられた紙片
※上の写真にある紙片を拡大したものです